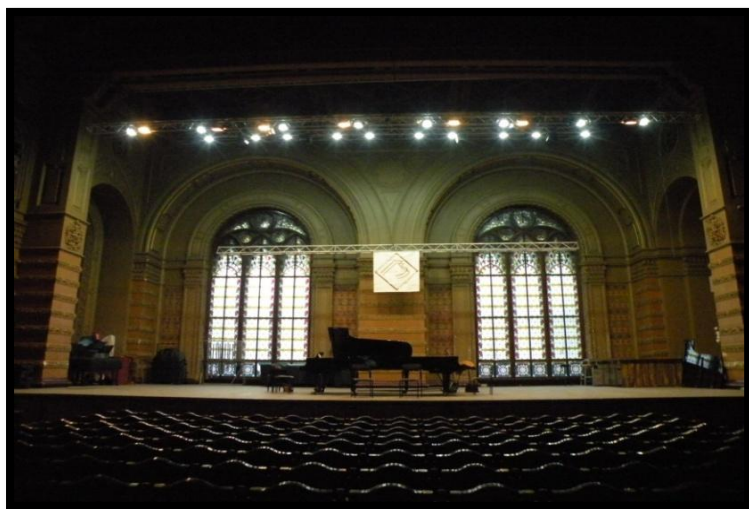


第6回 国際室内楽フェスティヴァル“オデッサ・ディアログ/Odessa Dialogues”

開催期間：11/21～23 場所：フィルハーモニック・大ホール(写真下),



ストラフスキー・ホール,
フィルハーモニック・小
ホール

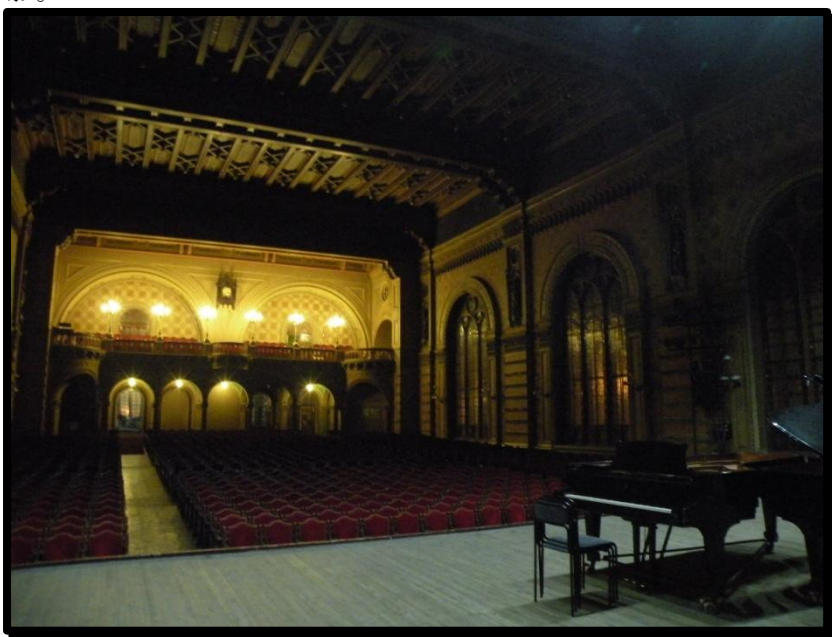
主催：ウクライナ・ピアノ
デュオ協会 (全ウクライ
ナ音楽連合)

会長：オルガ・シェルバ
コヴァ女史

副会長&オデッサ・ディ
アログ芸術監督：ユリ・
シェルバコフ氏

オルガ会長のお話しによりますと、これ迄 ピアノ・デュオのみの音楽祭を開いていた所、聴衆は様々なものを求めている事が分かり、今回は“色々な組み合わせのデュオ”をコンセプトにプログラムを組み、タイトルを“国際室内楽祭”と改めたとの事。

フェスティヴァル初日のガラ・コンサートは、ヴァイオリンとアコーディオン、会長と副会長の P.デュオ、クラリネットとギター、私達の P.デュオ、ヴァイオリンとピアノの5組出演。千人を収容できるフィルハーモニック大ホール。上と下の写真は、ガラ当日 G.プロ時に撮影。



この写真は、袖からス
テージに出て直ぐに見
える客席。

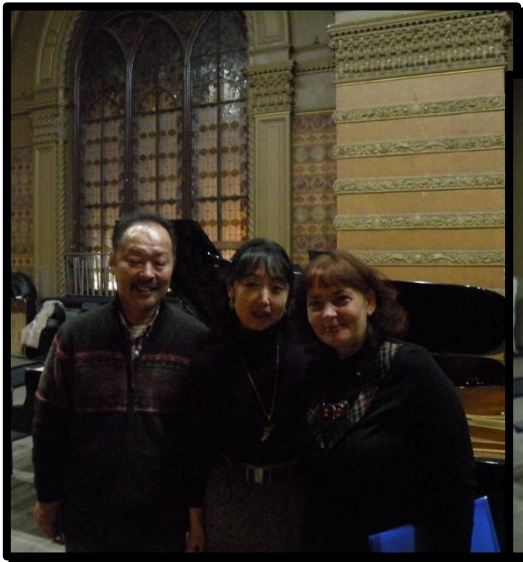
出演者は 客席には出ら
れないので 舞台袖か
ら 会長&副会長の P.
デュオを
見学。。



セカンドを担当しているのが
ユリ・シェルバコフ氏。

少々時間を遡り 前日の20日、
20時半～22時半にこの会場で
リハが有り、1時間程弾いた頃、
ガラの日で二人のデュオと
2台8手をしましょう！

という案をオルガ女史から伺い
私達は嬉しい驚きを覚えていました。



写真左はオルガ女史と。右はユリ氏と。

『シェルバコフさんなんて呼ばないで、ファーストネームで呼んで！』と仰るお二人は
とても優しく気さくなお人柄。 組まれて数十年・・・との事。

連弾で第4回国際ピアノデュオコンクールにて 毎日新聞社賞を受賞されています。

開催地オデッサに日本人は恐らく・・・我々のみでしたのでしよう。



ガラ当日、街中に有るフェスティバルの大きな
ポスターの前に立っていると・・・

『これはあなた達よね？』と話し掛けられ、
『行こうと思っているのよ！楽しみにしている
わ！』と励まされました。その女性に撮ってもら
いました写真です(左)。各々名前を指してい
ます。

ポスターのみは、前夜 雨の中撮っていました・・・



比較的上の方の21から6行目、
中央辺りの22の所に私達の名前がロシア
ン・アルファベットで記されています。
(因みに私は Kioko Maruma)

さて、オルガ女史&ユリ氏の演奏後
一組において私達・・・(primo:K.M.
second:Y.T.) 歓声に迎えられ・・・
1曲目は インファンテのアンダルシア
舞曲よりセンチミエント。
大きな緊張感の中 無事に終わると
温かい拍手。そして2曲目は
小倉朗の舞踏組曲より とてもノリ
のはっきりしたⅡ。

日本人の根底に流れる静と動、躍動感を 楽しみつつその時のベストで表現できた！と
思った次の瞬間、『ブラヴォー！』の声と共に大きな拍手、そしてアンコールの手拍子。
一旦中に入り掛けたものの 司会者に促され 再び舞台へ・・・カーテンコールのご挨拶。
袖に向かうと オルガ女史とユリ氏、そして次の出演者ペアが笑顔で『オデッサデビュー
おめでとう！』と迎えて下さり、主催のお二人から両頬に祝福のキス・・・
私達は その温かさに感動していました。

そしてフィナーレは、2組の P.デュオによる2台8手。Liadow の小品“Tachi tachi”
から4曲。最後の15小節位のところで 他の出演者達が登場し 舞台上に全員集合。
曲が終わると同時に 大歓声と拍手が起こり それは直ぐに手拍子に変わり・・・
出演者全員が横に並び手を繋ぎ 何度もお辞儀をしていました。



2日目は、ストラフスキーホールにてリサイタル。前ページの写真2枚は、ホールへ向かう階段。

司会は前日と同じ女性。前半はバッハの2台のチェンバロの為の協奏曲 BWV1061a 全楽章と小倉朗の「舞踏組曲」より I, III, II。バッハはいつも通り。パートチェンジをしての邦人作品は前日を上回るノリで楽しく演奏。『ブラヴォー！』に大きく励まされ後半へ…休憩の代わりに 5分間の司会者のお話しが入り、いよいよ初披露の連弾、ラヴェルの『マ・メール・ロワ』。

お互い綺麗な響きを楽しみつつ 美しく憂いを秘めた雰囲気を持って演奏した結果……客席全体からのブラヴォー！それに驚いていると、拍手は次第にアンコールの手拍子に変わり、司会者に促され舞台へ。未だラストの2台4手を残していましたから、一旦袖に戻り気持ちを落ち着け、ダフニスとクロエへ。

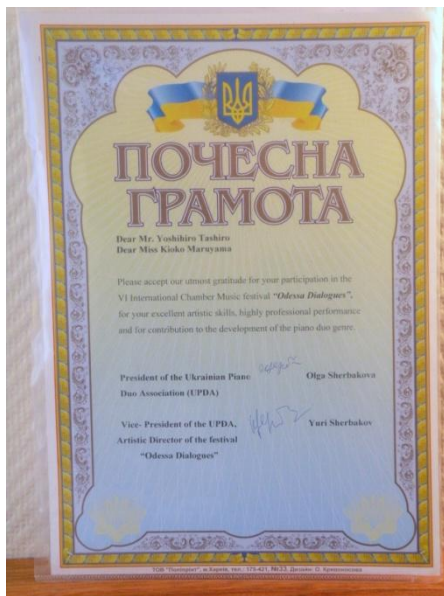


演奏を終えると、再び温かいブラヴォー！暫し感動してお辞儀をしているとオルガ会長が客席奥から手に何かを持って舞台にいらっしやり、司会の言葉が入り…会長から先ずウクライナ語でお話しが有り、客席から『Oh～～！』

と歓声が上がり、その後 英語で説明が有り、今回の国際室内楽祭に於いての **excellent artistic skills** と **highly professional performance** と P.duo の分野の発展に貢献したという3点に対しての賞状を渡されました。

『本当に有難うございます！』と胸に手を当ててお礼を述べ 私達二人共 深く長いお辞儀をしていました。

次の写真は、終演後にオルガ女史と頂いたディプロマ、お花達と共に撮りましたもの。ユリ氏による撮影。



賞状のアップです。

翌23日に どうしても都合により オデッサを離れなければならなかった為、この後お二人の提案で会食。その際、『来てくれたのがあなた達で 本当に良かった。』と手を握り締めて言って下さったので、『私達は とても大きな素晴らしい経験をさせて頂きました。お二人との演奏も 思い掛けない幸せでした。心より感謝しています。』と申し上げ、その感無量の気持ちの中、使命を果たせた喜びと共に P.デュオは楽しい！と改めて思っていました。

(記：丸山 匡子)